

イノシシの被害について

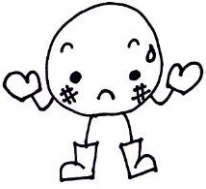
◎イノシシ被害の状況

近年、全国的にイノシシの被害が増えたというニュースをよく聞くようになりました。これは、イノシシの個体数が増えたことにより生息範囲が広がり、被害件数も増えてしまったということに他なりません。

瀬戸内海の島々でもイノシシによる農作物の被害が増えており、周防大島や平郡島などでは、何年も前から対策に困っているところがあります。

イノシシは1kmくらいの距離なら海を泳いで渡ると聞いていましたが、長島から最短距離で4kmも離れた祝島でも数年前からイノシシによると思われる被害が出始め、「島にイノシシがいるのではないか」という噂が広まり、昨年末、ついに100kg級の大きなイノシシが捕獲されました。当初は、捕獲された一頭だけならと、島民も少し安心していましたが、その後芋畑やミカン畑が荒らされるのが相次ぎ、今年の秋になってから小さいイノシシが、すでに4頭、県にかかりました。イノシシの目撃情報も増えていることから、すでにかなりの頭数に増えてしまっているのではな

いかと考えられています。



◎イノシシの習性

イノシシは雑食性といわれ、さまざまなものを食べます。春先のタケノコが好物だ

とよく聞きますが、夏にはカボチャやトウモロコシも食べますし、今の時期収穫される、サトイモやサツマイモなどもイノシシの好物で、掘り返してきれいに食べていくといえます。ミカンが美味しいのもよく知っています。木によじ登るようには届く範囲のミカンは全部食べてしまうし、木を傷めてしまうのが困ったものです。ミカンの皮は食べ残し、中の柔らかいところだけをきれいに食べていってしまうのだとか、すごいですね。

あまり食べないといわれる葉物野菜ですが、これらは食べるというよりも、そこにいるミミズや昆虫を掘り返して食べるため、畑を荒らされてしまうのだそうです。なので、荒らされるのは畑だけということでもなくて、花壇やゴルフ場などが荒らされたりもするのです。

また、イノシシは、体に付いた寄生虫を落とそうと、頻りに泥浴びをします。沼のようなところならともかく、田んぼで泥浴びをされては、稲への被害や、ゴロゴロ激しく動くと、畔を崩されてしまう場合もあり、全く迷惑この上ない話です。



◎イノシシを寄せ付けない方法

イノシシから畑や田んぼを守るには、どうすればいいのでしょうか。まず、イノシシを寄せ付けない方法を考えましょう。侵入を防ぐためには、柵を設置します。板状のもの、網状のもの、電気柵などいろいろあります。

トタン板は向こう側にある作物が見えない、つまり視覚を遮ることができるので、効果があります。ただ、1mほどの高さくらいなら飛び越えたり、ちょっとした

隙間があれば、壊してしまうほどの力があります。

触れると電流が流れ、びくつきさせることのできる電気柵も身体全体を分厚い毛皮でおおわれているイノシシにとっては、鼻先のみ効果的なのですが、その仕組みを覚えてくると、柵の下に穴を掘って、後ろ向きでその柵をくぐってしまいうこともあるというほど賢くもめるのです。

イノシシは警戒心が強く、匂いや音にも敏感です。なので、昔から人の髪の毛を束ねてつるしたり、せつけんや線香、コールトールなどの匂いをつけたりしていました。大きな音を立てたり、大きな声でラジオをつけておくことも効果があります。柵を立てる対策と併用して効果を高めるとよいでしょう。

イノシシが好む環境をつくらないことも大切です。農地の周りを藪にしないように、こまめに草を刈ったりして開けた場所にするのです。泥浴びのできる湿地も好みますし、野菜くずを捨てる場所などはイノシシの餌場になってしまふのです。これらの対策は、一個人でするよりも集落全体ですることが望まれます。

◎イノシシを減らすには

イノシシの被害を減らすには、寄せ付けないだけでなく、捕獲して個体数を減らすことが重要になります。

実際にイノシシを捕まえる具体的な方法としては、大きく分ける「わな猫」と「銃猫」があります。しかし、誰でも自由に捕まえていいわけではなく、まずは狩猟免許をとり、許可を得る必要があります。わな猫の場合は「わな猫免許」が、銃猫(散弾銃等)の場合は「第一種銃猫免許」が必要になります。近年は、銃猫免許をもっている狩猟者が

年々減少していることに加えて、箱わななどのわなが普及したことで、銃猫による捕獲数よりもわな猫での捕獲数が上回っているとのこと。

わなにもいくつかの種類がありますが、一般的なのは「へりわな」と「箱わな」です。「へりわな」は、イノシシの通り道に「イヤ」を設置して、通りかかったイノシシの足をへりつけて捕らえるわなです。イノシシの通り道を熟知する必要があります。効果をおげるには熟練を要します。しかし、軽いので持ち運びや移動が簡単、1人でも簡単に設置ができる、箱わなに比べると遙かに安価なので数多く設置することが可能ななどのメリットもあります。



足くりわな

「箱わな」は、餌で誘引するわななので、くくりわなに比べて捕獲率が高いのが特徴です。大きくて目立つため、人が誤ってかかってしまうようなことがなく、安全性が高いこともメリットです。しかし、大きくて重いので、数人で設置する必要がある、一度設置したら簡単には移動できないとか、車で運べる場所にしかな設置できないなどのデメリットもあります。



箱わな

※昭和50年代から狩猟者の数は年々減少しているため、新たな捕獲の担い手を確保・育成することを、各都道府県で奨励しています。狩猟免許の取得方法については、最寄りの農林事務所森林部へ、また、狩猟免許取得のための助成に関しては、県庁自然保護課へお問合せください。

◎「わいわいタイムス」12月号は12月4日(日)に発行予定です。